

国立国語研究所学術情報リポジトリ

隠岐の島方言のアクセント

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-11-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002489

隠岐の島方言のアクセント

松倉 昂平*・三樹 陽介**

1. 調査報告の概要

2016年11月、隠岐の島町中村・都万の2地点で行ったアクセント調査の結果を報告する。両地点についてアクセント体系・音調型の概要を述べ、すべての調査項目のアクセントデータを掲載する。

本稿の執筆分担は次の通り：1章と中村方言の報告（2章，4.1節）は松倉が、都万方言の報告（3章，4.2節）は三樹が担当した。報告書の原稿は調査者全員に回覧し、他の調査者より修正の提案を受けた箇所について加筆・修正を行った¹。

本稿で用いる音調記号は次の通り：]…拍間の下降，!…拍間の小さな下降，[…拍間の上昇，]]…拍内下降，[[…拍内上昇。上昇や下降のある発話とない発話が両方観察された場合，() や () のように括弧に入れて表す。

分節音の表記には原則カタカナを用いるが、一部ひらがなを用いて母音が無声化していることを表す²（例：「くチビル」…1拍目「ク」が無声化）。

2. 隠岐の島町中村方言

2. 1 調査項目について

調査票は、国立国語研究所が作成したものを用了。さらに、複合語アクセント規則を見るために複合名詞67語（及びその構成要素である2拍名詞27語と3拍名詞31語）を調査項目に追加した。

2名の話者に対して調査したほぼ全ての調査語彙についてその所属型に個人差はなく、アクセント体系全体としても個人差について特筆する点はない。4.1節に掲載するアクセントデータは両名の調査結果を合わせてまとめたものである。

2. 2 アクセント体系

今回調査し得た範囲内では、広戸惇・大原孝道（1953）、上野善道（1989）など先行研究すでに報告される通り、語の長さが増えても型の対立数が一定数（=3）以上に増えない「三型アクセント」であることが改めて確認された。(1)に1~5拍名詞に観察される3つの音調型を一

* まつくら こうへい：東京大学大学院博士後期課程

** みき ようすけ：日本学術振興会特別研究員 PD/国立国語研究所外来研究員

¹ 本稿の特に2~3章に関して上野善道氏より多くの貴重なご意見を頂いた。ここに記して感謝申し上げる。

² 主に無声化が音調に影響を及ぼす場合に無声化を明示するための表記であり、全ての無声化拍を逐一ひらがなで表記し分けてはいない。

覧する（本稿では3つの型をそれぞれA型、B型、C型と呼称する³⁾。なお1拍名詞には、先行研究で指摘される通りA型の語例が確認されておらず、型の対立数を1つ減じているとみられる。

また各型の音調は概ね上野（1989）に記述される通りであるが、音声的なバリエーションの幅がある程度広く観察された型もあり、これについては次節で触れる。

(1) 名詞のアクセント体系

	1拍語 ⁴⁾	2拍語	3拍語	4拍語	5拍語
A	—	[ハ]][コ	[カ]ガ[ミ	[カ]ミナ[リ	[モ]モバタ[ケ
B	[カー]]	[コ]メ	コ[コ]ロ	ウ[グイ]ス	ハ[ナバタ]ケ
C	[テ!ー	[フ!ネ	[ウサ!ギ	[ハリガ!ネ	[ムギバタ!ケ

A型は、語頭拍と末位拍のみが高くその間に低い拍が続く重起伏調を持つ。2拍語の場合、末位拍は高く語頭拍に拍内下降が生じる音調（[○]][○）を取る。

B型は、ちょうどA型と比べ高低を反転させたような音調を持ち、語頭拍と末位拍のみが低くその間に高い拍を挟む音調となる。2拍語の場合、語頭拍から高い[○]○型を取る。1拍語単独形は高く始まり直線的に低へ向かう下降調である。

C型は、次末拍と末位拍の間に下降が生じる点でB型と類似するが、下降幅がB型よりも小さい点、（3拍以上の場合）語頭拍から高く始まる点で区別される。ただしC型は音声的な実現幅が広く（1）の表記とは若干異なる発音もよく聴かれる（2.3.3項参照）。

2. 3 音声的なバリエーション

2. 3. 1 A型の音調

3拍以上のA型における語頭の高は必ず現れるが、2拍A型の1拍目に生じる拍内下降は、それが生じない発音（○[○）もよく聴かれる。

(2) 2拍A型の音調

[ハ]][コ。～ ハ[コ。

また、1拍目の母音が無声化する場合、2拍目が高を担う。

(3) 1拍目の母音が無声化したA型語

く[チ]ビル。 く[チ]ビル[ガ。 く[チ]ビルカ[ラ。
ふ[ト]コ[ロ。 ふ[ト]コロ[ガ。 ふ[ト]コロカ[ラ。

³⁾ 論文によって各型を指す呼称は異なるが、特に上野（1989）がA型と呼ぶ型は本稿のC型にあたり上野（1989）がC型と呼ぶ型は本稿のA型にあたる点注意されたい。上野（2012）のA~C型は本稿のA~C型と一致する。

⁴⁾ 1拍語は単独で発話すると2モーラ長に長呼される。

2. 3. 2 B型の音調

B型は最も音声的な揺れ幅が小さくほぼ(1)の通り実現する。

(1点補足するならば)2拍B型がときおり[○○]]とも実現する。

2. 3. 3 C型の音調

C型には次の2つの音声的な現象が関わる：①語頭拍が低く実現することがあり⁵，②末位拍の中音調(...○!○)は末位拍内部の上昇(...○][[○)にも聴かれることがある。

(4) 3拍C型のバリエーション

[○○!○ ~ ○[○!○ ~ [○○][[○ ~ ○[○][[○

○[○!○型はB型の音調(○[○]○)にかなり接近しており，注意を怠るとB型と聞き紛う恐れがあるが，B型との音声的な対立は基本的に保持されている(=型の中和は生じない)。

共時的には，…○!○型と…○][[○型は音声的なレベルでのバリエーションの関係にあるが，通時的には，…○][[○型の方が古く…○!○型へ変化する過程⁶にあると考えられる。なお上野(1989)はこの型を末位拍内で上昇が生じる音調(…○][[○)と記述しており，また通時的に見て古い方を基本型として捉える方が，バリエーションの派生関係を説明する上では都合が良いと思われるが，今回は調査結果(聴き取り結果)を報告することが主目的であるため実現頻度の上で圧倒的な…○!○型を基本の音調として扱う。

2. 4 N型アクセントの一般特性(上野善道2012)の検証

鹿児島方言の二型アクセントに典型的にみられるという4つの特性(「文節性」，「系列化」，「複合語のアクセントはその前部要素のアクセントを引き継ぐ」という複合アクセント法則，「活用形アクセントの一貫性」)が，同じくN型アクセントを持つ隠岐中村方言にどこまで共有されているか検証する。なお動詞活用形のアクセントが今回の調査内容に含まれなかったため「活用形アクセントの一貫性」は取り上げない。

2. 4. 1 文節性と系列化

今回調査した範囲内では，助詞及び助詞連続(ガ，オ，ニ，ノ，カラ，マデ，カラモ，マデモ)は固有のアクセントを持たず，自立語のアクセントが文節全体を単位として実現する「文節性」が確認された。またp拍の自立語にq拍の付属語が付いた音調型は，同じ系列の(p+q)拍の自立語の音調型と同じになる現象「系列化」が各型で成り立つ。

⁵ 3拍以上のB型の語頭拍は常に低い。高～低で揺れるC型とは異なる。C型の語頭低下を音声的なレベルの現象であるとするれば，B型の語頭の低は音韻的に指定されるものと捉えられる。

⁶ …○][[○型において拍間の下降がやや小さくなり，従って末位拍内部の上昇幅もまた抑えられることで…○!○型が成立する。

(5) 5拍文節の系列化

- A [ハ]コカラ[モ] = [カ]ガミカ[ラ] = [カ]ミナリ[ガ] = [モ]モバタ[ケ]
B コ[メカラ]モ = コ[コロカ]ラ = ウ[グイス]ガ = ハ[ナバタ]ケ
C [フネカラ]!モ = [ウサギカ]!ラ = [ハリガネ]!ガ = [ムギバタ]!ケ

2. 4. 2 複合名詞

2. 4. 2. 1 先行研究

九州西南部の（特に鹿児島地方の）二型アクセントにおいては、複合語のアクセント型がその前部要素の型に一致するという複合語アクセント規則が広く成り立つことが知られる。隠岐の三型アクセントについては、このような前部要素一致型の規則（単に「式保存（の法則）」とも呼ばれる）は隠岐全域において成り立たないとする研究（上野 1984, 2012）と、五箇方言においては「式保存が「原則的に」成り立つ」と結論付ける報告（松森晶子 2011）がある。

このような式保存の成否に関する結論の食い違いは、隠岐内部の方言差や分析対象となるデータの性格の違いを反映する訳ではなく、単に「式保存が成り立つ」と言える基準がどこにあるかの見解の違いに過ぎないと考えられる。実際、各研究で扱われるデータの全体的な傾向に関する記述はよく一致するようである。

(6) 松森（2011, p. 75）による記述—隠岐島五箇方言の「式保存」について—

「五箇方言では①式保存が「原則的に」成り立つ、②その式保存の例外は前部が B 型の場合に生じやすい、③全体的に複合語が「A 型への統合傾向」を示していることを報告した。」

(7) 上野（2012, p. 51）による記述—前部要素の型と複合語の型の関係について—

「隠岐全島で A→A は多く、[...]B は B→A の例が多く、C の例外も C→A の例が多い。全体として、出来上がった複合語は A となるものが最も多い。」

(6) に補足をすると：前部が B 型の場合に生じる例外とは全て「前部 B→全体 A」であり、前部が C 型の場合の例外も全て「前部 C→全体 A」である。一方前部が A 型ならばたった 1 語の例外を除いて全て「前部 A→全体 A」となる。このようなデータを踏まえて上記①③のように結論付けている。

松森（2011）は、ほぼ例外なく「前部 A→全体 A」が成り立つこと、前部が B, C 型の場合も「前部 B→全体 B または A」「前部 C→全体 C または A」といういわば「条件」付きの規則が例外なく成り立つことを指して式保存が「原則的に」成り立つとし、上野（1984, 2012）は、「前部 B→全体 B」や「前部 C→全体 C」に対する例外——すなわち松森（2011）では「条件」として規則に織り込まれた「前部 B, C→全体 A」というパターン——が多いこと等を指して式保存が成り立たないとする。

2. 4. 2. 2 調査結果

中村方言でも、調査語数は少ないながらも (6) (7) に完全に一致する傾向が確認された。調査項目に追加した 67 語の複合名詞（2 拍+2 拍 8 語、2 拍+3 拍 35 語、3 拍+2 拍 6 語、3 拍+

3拍18語)の調査結果を、前部要素の型別に分類して表に示す⁷。

前部がA型の場合1語の例外(「水(A型)」に対して「水色」がC型)を除いて複合語もA型となり「式保存」が成り立つ。前部がB型の場合複合語はA型またはB型、前部がC型の場合複合語は主にC型となるが一部A型にも転じる。

前部がB, C型るとき複合語全体が前部の型を引き継ぐかA型に転じるかは、後部要素により決定される面が大きいようである。複合名詞を後部要素別に見てみると、後部要素はその性質別におおよそ3種(①前部の型に関わらず全体がA型になるもの, ②前部がA, B型ならば全体はA型, 前部がC型ならば全体はC型になるもの, ③前部の型をそのまま引き継ぐもの)に分類できる。

表1 前部要素の型別分類

前部要素の型別語数		複合語の型別語数		
		A	B	C
A	22	21	0	1
B	21	11	10	0
C	25	8	0	17
計	68	40	10	18

(8) ①「前部A, B, C→全体A」となる後部要素

【仕事】庭仕事A, 山仕事A, 針仕事A (庭A, 山B, 針C)

【団子】笹団子A, 肉団子A, 黍団子A (笹A, 肉B, 黍C)

【林】竹林A, 栗林A, 松林A (竹A, 栗B, 松C)

(9) ②「前部A, B→全体A, 前部C→全体C」となる後部要素

【箱】筆箱A, 紙箱A, 下駄箱C (筆A, 紙B, 下駄C)

【作り】国作りA, 米作りA, 味噌作りC (国A, 米B, 味噌C)

【袋】布袋A, 紙袋A, 箸袋C (布A, 紙B, 箸C)

(10) ③「前部A→全体A, 前部B→全体B, 前部C→全体C」となる後部要素

【虫】水虫A, 芋虫B, 松虫C (水A, 芋B, 松C)

【畑】桃畑A, 花畑B, 麦畑C (桃A, 花B, 麦C)

中村方言の複合語アクセント規則は、専ら前部要素の性質に依存する九州の二型アクセントとは異なり、「前部要素の型(A~C)と後部要素の性質(①~③)の組み合わせによって決まる」とまとめられる。

⁷ A, C両型を併用する「松飾り」(前部要素C型)については、併用型それぞれを1語として重複して数えた。そのため表1上の複合語数は68語となる。

表 2 前部要素の型と後部要素の性質の組合せから予測される複合語の型

前部要素の型	後部要素の性質		
	①	②	③
A	A	A	A
B	A	A	B
C	A	C	C

表 2 によると、前部が A 型ならば後部の性質に関わらず複合語は A 型になる。前部が B, C 型ならば複合語は一部 A 型に転じるが、後部要素②と③の性質差により、前部が B 型の場合の方が、複合語が A 型に転じる割合が高くなる（表 1 においては前部が B 型の複合語 21 語中 11 語（52%）が A 型に転じている。一方前部が C 型の場合 24 語中 8 語⁸（33%）にとどまる）。

ただし、この規則にあてはまらない例外、また①～③いずれにも該当しない性質を持つ後部要素も見られる。また、前部要素の長さ（拍数）に応じて後部要素の振舞いが変わる場合もある。さらに詳細な規則を定式化するには様々な要素を考慮に入れる必要がある。

2. 5 連文節の音調交替現象

中村方言には、複数の文節が連続したとき、文末／非文末の別、前後に隣接する文節の型、及びプロミネンスの有無・位置に応じて音調型が大きく変わる複雑な音調交替現象が存在する（上野 1989）。

今回の調査では単独文節の形を中心に聴き出したため連文節の音調交替について考察するデータは十分でないが、以下では、文末／非文末形の違いと、先行する文節の型によってその後ろに続く語の音調が変わる現象を簡単に取り上げる。

2. 5. 1 文末／非文末形の交替

A, C 型は非文末環境において (1) に示した言い切り形とは若干異なる音調を取ることがある。

A 型には、末位拍直前の上昇が末位拍内部に後退した発話、あるいは末位拍の高が失われた発話も聴かれる。

(11) 3 拍 A 型の非文末形

[カ]キ[ガ]ア[ル]。～ [カ]キ[[ガ]ア!ル]。～ [カ]キガ[ア]ル。(cf. [カ]キ[ガ]。「柿が」)

C 型の末位拍内部の上昇は文末形にのみ聴かれる音調であり、非文末環境では B 型との下降幅の対立も明瞭には現れない。

(12) 2~4 拍 C 型の非文末形

[テ]ガア[ル]。(cf. [テ!ガ。])
[カサ]ガア[ル]。(cf. [カサ!ガ。])

⁸ 8 語中 1 語は C 型を併用する「松飾り」。24 語は C 型前部要素を持つ複合語の異なり語数。

[ウサギ]ガオ[ル。 (cf. [ウサギ!ガ。)

2. 5. 2 先行文節の型による交替

本節では、前に接する名詞節の型に応じて後続する 2, 3 拍動詞がその音調を大きく交替させる例を示す。

(13) 2拍 A 型語 ([オ][ル) の交替

- A+A [オ]ンナ[ガオ]ル。～ [オ]ンナ[ガオ][ル。
B+A イ[トコ]ガオ]ル。
C+A ウ[サギ]ガオ]ル。

(14) 2拍 C 型語 ([ア][ル) の交替

- A+C [カ]キ[ガア]ル。～ [カ]キ[[ガア!ル。
B+C イ[モ]ガア]ル。
C+C [カサ]ガア]ル。～ [カサ]ガ[ア][ル。

(15) 3拍 A 型語 ([タ]べ[ル) の交替

- A+A [カ]キカ[ラタ]べ()ル。
B+A イ[モカ]ラタ]べ()ル。
C+A [ムギカ]ラタべ]ル。

(16) 3拍 B 型語 (ミ[エ]ル) の交替

- A+B [ハ]コガミ[エ]ル。
B+B ア[シ]ガミ[エ]ル。
C+B [ウミ]ガミエ]ル。～ [ウミ]ガミ[エ]ル。

先行文節が A, B 型である場合、後続する 2 拍動詞は…○]○型を取り、3 拍動詞は基本的に単独形の音調を維持するようである。先行文節が C 型の場合、後続する動詞は…○[○/…○
○[○型に交替する。

動詞がこれらの交替形を取らず、単独形と同じ音調で実現する発話も観察されるが(例:(14)
[カサ]ガ[ア][ル), これは動詞にプロミネンスが置かれた形であると考えられる⁹。

特に注目されるのは、(13) イ[トコ]ガオ]ル/ウ[サギ]ガオ]ルのように、先行する名詞節の
B, C 型の区別が主に後続する動詞側の音調に現れる点である。(16) ア[シ]ガミ[エ]ル/[ウミ]
ガミエ]ルのように名詞側の音調(語頭拍の高低など)もわずかに異なることはあるが、最も分
かりやすく両型の違いが現れる部分は後続する動詞内部にある(…ミ[エ]ル/…ミエ]ル)こと
は確かである。

⁹ 今回、プロミネンスの有無・位置については一切コントロールを加えなかった。同じ文の発話でも、それらの条件が(話者の中で)変われば、表面上の音調も大きく変わりうる。

3. 隠岐の島町都万方言

3. 1 調査項目について

調査票は、国立国語研究所が作成したものをを用いた。中村方言において行なった複合語アクセント規則を調査するための追加項目については都万方言では未調査である。また、そのため、5拍以上の語についても未調査である。

2名の話者に対して調査したほぼ全ての調査語彙についてその所属型に個人差はなく、アクセント体系全体としては個人差について特筆する点はない。ただし、実際に観察される音声にはバリエーションがみられる。4. 2に掲載するアクセントデータは2名の調査結果を合わせてまとめたものであるが、原則、ゆれの少ない1名の話者のデータをベースとした。

3. 2 アクセント体系

今回の調査範囲内では、都万方言においても三型アクセントであることが改めて確認された。(17)に1~4拍語に観察される3つの音調型を一覧する。音声的バリエーションがあるものについては、最も優勢なものを表(17)に示した。

なお、1拍語では先行研究で指摘される通りA型の語例が確認されておらず、また、B・C型は単独形で対立が中和する(助詞を続ければ区別が現れる)。全体的に音声的バリエーションが広く認められ、また、個人差についてもある程度広く確認された。これらについては3. 3で述べる。

(17) 名詞のアクセント体系

	1拍語 ¹⁰	2拍語	3拍語	4拍語
A	—	ハ[コ	[カ]ガ[ミ	[カ]ミ[ナ]リ
B	[カー]]	[コ]メ	コ[コ]ロ	ウ[グイ]ス
C	[テー]]	[フネ]]	[ウ]サギ	[ハリ]ガネ

A型は、4拍語および、それに助詞のついた形¹¹から、アクセント体系としてのパターンは語頭拍と後ろから2拍目が高く、その間に低い拍が続く重起伏調であると考えられる。ただし、2拍語の場合、語頭拍は低く語末拍が高いが、この語頭の低は義務的なものではなく、[ハ][コのように、語頭拍が高く、拍内に下降を生じた後、語末拍の前で上昇する場合がある。アクセント体系としての整合性からは[○]][○型の方が都合が良いと考えられるが、本報告では、調査結果の報告という目的に鑑み、実現頻度の高い○[○型を基本の音調として示した。3拍語の場合、後ろから2拍目の高は1拍後ろにずれ、語末拍が高くなる。

B型は、語頭拍と語末拍のみ低く、語中拍が高くなる。2拍語の場合、語頭拍が高く、語末拍が低い。また、1拍語の場合、長呼化され2モーラで発音されるが、1拍目が高く、2拍目で拍内下降が生じる。

C型は、4拍語および、それに助詞のついた形から、語頭拍と2拍目が高く、その後には下降が

¹⁰ 1拍語は単独発話の場合は長呼化され、2モーラで発音される。

¹¹ [カ]ミナリ[マ]デのように、後ろから数えて2拍目が高く発音されている。

生じ、低く続くのが基本的な音調型であると考えられる。ただし、短い単位の場合はその実現に音調的なバリエーションがみられる。

2 拍語の場合、語頭拍と語末拍が高いが、語末拍に拍内下降を伴う。1 拍語の場合は長呼化されて2 モーラで発音されるが、2 拍目同様、語末拍で拍内下降する。3 拍語の場合は語頭拍が高く、直後に下降が生じる。3 拍語には音調的なバリエーションが広くみられたが（3. 3. 3参照）、実現頻度の高い[○]○○型を基本の音調として示した。

3. 3 音声的なバリエーション

全体的に音声的なバリエーションが広く認められる。表(18)は(17)に示した体系表に、音声的なバリエーションを反映させたものである。(17)の体系表では実際の発話で優勢であるものを示したが、むしろ(18)で下線で示したもののよう、音声的なバリエーションとしては劣勢であるものの方が整合性が高い場合がある。

(18) 音声的なバリエーション

	1 拍語	2 拍語	3 拍語	4 拍語
A	—	ハ[コ ~ <u>[ハ]</u>][コ	[カ]ガ[ミ	[カ]ミ[ナ]リ ~ [カ]ミ[ナ]リ
B	[カー] ~ <u>[テ]</u> —	[コ]メ	コ[コ]ロ	ウ[グイ]ス
C	[テー] ~ [テ]—	[フネ] ~ [フ]ネ	[ウ]サギ ~ <u>[ウ]サ[ギ]</u>	[ハリ]ガネ ~ ハ[リ]ガネ

3. 3. 1 A型の音調

2 拍語では原則語頭は低く始まるが、語頭拍が高く始まって拍内下降し、語末拍の直前で上昇する発音が観察される。1 拍目が無声化する場合、高を2 拍目にずらすことがあるが、無声化する環境にあっても無声化が起こらず、高をずらさない場合があり、同一個人内で併用されている。

1 拍目が無声化する場合 は[サ]ミ¹²。 は[サ]ミ[ガ]。

1 拍目が無声化しない場合 [ハ]サミ[カ]ラ。

3. 3. 2 B型の音調

B型は最も音声的な揺れ幅が小さく、ほぼ(17)の体系表通り実現する。

3. 3. 3 C型の音調

C型では音声的なバリエーションが広く観察される。1 拍語は2 モーラで長呼されるが、原則2 拍目に拍内下降を伴う。しかし、2 拍目の拍内下降を伴わず、1 拍目の後で下降する場合がある。また、2 拍語でも、語末拍に拍内下降がみられるが、拍内下降を伴わず、1 拍目の後で下降する

¹² ひらがなで無声化拍を表す。

場合がある。

語末拍での拍内下降は3拍語でもみられるが、3拍語の場合は語頭拍が高く、直後に下降が生じ、語末拍の直前で上昇してから拍内下降する。2拍目の後で上昇が生じ重起伏調になる点でA型と類似するが、C型が拍内下降を伴う点で異なり、対立は保たれている。

(19) 3拍C型のバリエーション

[○]○○ ～ [○]○[○]

[○]○[○]型はA型に接近してはいるが、違いは明瞭に聞き取れ、語単独言い切りの場合以外ではほとんど現れず、対立は保たれている。

3. 3. 4. 個人差

話者により、個人差がみられる。本稿ではゆれの少ない話者（以下、話者A）のデータを基本として扱ったが、もう一方の話者（以下、話者B）では音声バリエーションが広くみられた。

話者Bの場合、1拍語ではB・C型ともに、2拍目の拍内下降がなく、語頭拍の直後に下降を伴って発音される場合があった。このバリエーションは話者Aには観察されなかった。

また、A型の場合、3拍以上の語単独発話の場合における語頭の高は義務的に表れるが、話者Bの場合、3拍名詞に助詞ガ・ニが接続した形では、セ[ナ]カ[ガ]のように、高の拍を一拍ずつ遅らせて発音する傾向にある。ただし、A型4拍語言い切りの際にはこのようなバリエーションは現れない。

また、話者Bでは、語によって系列化が機能していない点で話者Aとは異なる。系列化については3. 4で述べるが、2拍名詞に助詞ガ・ニが付いた場合、[カ]ゼ[ガ]（A型）、[オ]ト[ガ]（B型）、[カ]サ[ガ]（C型）、のように、型の別を問わず同じ音調型で発音され、対立が失われている。

3. 4 N型アクセントの一般特性（上野善道 2012）の検証

上野善道（2012）で示されているN型アクセントの4つの特性（「文節性」、「系列化」、「複合語のアクセントはその前部要素のアクセントを引き継ぐ」という複合アクセント規則、「活用形アクセントの一貫性」）について、隠岐都万方言においてどこまで共有されているかを検証する。なお複合語と動詞活用形のアクセントについては今回の調査内容に含まれなかったため、「複合語アクセント規則」と「活用形アクセントの一貫性」については取り上げない。

今回調査した範囲内では、都万方言においても助詞及び助詞連続（ガ、オ、ニ、ノ、カラ、マデ、カラモ、マデモ）は固有のアクセントを持たず、自立語のアクセントが文節全体を単位として実現する「文節性」が確認された。またp拍の自立語にq拍の付属語が付いた音調型は、同じ系列の(p+q)拍の自立語の音調型と同じになる現象「系列化」が原則各型で成り立つが、音声的バリエーションが広くみられるC型3拍語においてのみ、該当しないものがみられた。

(20) 5拍文節の系列化

A [ハ]コカ[ラ]モ = [ミ]ナト[カ]ラ = [カ]ミナ[リ]ガ

B コ[メカラ]モ = コ[コロカ]ラ = ウ[グイス]ガ

C [カサ]カラモ = [ハリ]ガネガ

(但しC型3拍語については, [カサ]カラモ = [ハリ]ガネガ ≠ [ウサギ]カラ。)

また, 話者Bの場合、一部の語で系列化が成り立たず、型の対立が保たれなくなる傾向がみられた。

A [カ]ゼ[ガ] カ[ゼマ]デ カ[ゼマ]デモ

B [オ]ト[ガ] オ[トマ]デ オ[トマ]デモ

C [カ]サ[ガ] カ[サマ]デ カ[サ]マデモ

参照文献

上野善道 (1984) 「類の統合と式保存——隠岐の複合名詞アクセント」『国語研究』47, 1-53.

上野善道 (1989) 「隠岐島中村方言のアクセント交替」『国語研究』52, 1-24.

上野善道 (2012) 「N型アクセントとは何か」『音声研究』16 (1), 44-62.

広戸惇・大原孝道 (1953) 『山陰地方のアクセント』報光社.

松森晶子 (2011) 「隠岐島五箇方言の「式保存」とその例外について」『音声研究』15 (3), 74-75.

4. 隠岐方言のアクセントデータ

4. 1 隠岐の島町中村方言のアクセント資料

(1) 2拍名詞

類・型	単独形	+ガ	+ニ	+カラ	+マデ	+カラモ	+マデモ
風	カ[ゼ]	[カ]ゼ[ガ]	[カ]ゼ[ニ]	[カ]ゼカ[ラ]	[カ]ゼマ[デ]	[カ]ゼカラ[モ]	[カ]ゼマデ[モ]
箱	ハ[コ] ~ ハ[[コ]	[ハ]コ[ガ]	[ハ]コ[ニ]	[ハ]ココカ[ラ]	[ハ]ココマ[デ]	[ハ]ココカラ[モ]	[ハ]ココマデ[モ]
音	[オ]ト	オ[ト]ガ	オ[ト]ニ	オ[ト]カ[ラ]	オ[ト]マ[デ]	オ[ト]カラ[モ]	オ[ト]マデ[モ]
胸	[ム]ネ	ム[ネ]ガ	ム[ネ]ニ	ム[ネ]カ[ラ]	ム[ネ]マ[デ]	ム[ネ]カラ[モ]	ム[ネ]マデ[モ]
歌	ウ[タ] ~ ウ[[タ]	[ウ]タ[ガ]	[ウ]タ[ニ]	[ウ]タカ[ラ]	[ウ]タマ[デ]	[ウ]タカラ[モ]	[ウ]タマデ[モ]
芋	[イ]モ	イ[モ]ガ	イ[モ]ニ	イ[モ]カ[ラ]	イ[モ]マ[デ]	イ[モ]カラ[モ]	イ[モ]マデ[モ]
米	[コ]メ	コ[メ]ガ	コ[メ]ニ	コ[メ]カ[ラ]	コ[メ]マ[デ]	コ[メ]カラ[モ]	コ[メ]マデ[モ]
笠	[カ]サ	[カ]サ[ガ]	[カ]サ[ニ]	[カ]サカ[ラ]	[カ]サマ[デ]	[カ]サカラ[モ]	[カ]サマデ[モ]
舟	[フ]ネ	[フ]ネ[ガ]	[フ]ネ[ニ]	[フ]ネカ[ラ]	[フ]ネマ[デ]	[フ]ネカラ[モ]	[フ]ネマデ[モ]
雨	[ア]メ ~ ア[[メ]	[ア]メ[ガ]	[ア]メ[ニ]	[ア]メカ[ラ]	[ア]メマ[デ]	[ア]メカラ[モ]	[ア]メマデ[モ]
井戸	[イ]ド	イ[ド]ガ	イ[ド]ニ	イ[ド]カ[ラ]	イ[ド]マ[デ]	イ[ド]カラ[モ]	イ[ド]マデ[モ]

十ノ...	後続語の型・音調	十ノ...	後続語の型・音調
[カ]ゼ[ノ]オ[ト] ~ [カ]ゼ[ノ]オ[ト]	音 B [オ]ト	コ[メ]ノ[デ]キ ~ コ[メ]ノ[デ]キ	出来 C [デ]キ
[ハ]コノ[ナ]カ ~ [ハ]コノナ[カ]	中 C [ナ]カ	[カ]サノ[ホ]ネ	骨 B [ホ]ネ
オ[ト]ノオーキー[サ]	大きき C [オーキー]サ	[フ]ネノ[ウ]エ	上 B [ウ]エ
ム[ネ]ノ[マ]エ	前 C [マ][エ]	[ア]メノ[ナ]カ ~ [ア]メノ[ナ]カ	中 C [ナ]カ
[ウ]タノ[ホ]ン	本 B [ホ]ン	イ[ド]ノ[マ]エ ~ イ[ド]ノ[マ]エ	前 C [マ][エ]
イ[モ]ノ[ツ]ル	弦 B [ツ]ル		

(2) 3拍名詞

類・型	単独形	+ガ	+カラ	+カラモ ¹
煙	1B ケ[ム]リ。	ケ[ムリ]ガ。	ケ[ムリ]カラ。	ケ[ムリ]カラ[モ]。
踊り	1A [オ]ドリ。	[オ]ドリ[ガ]。	[オ]ドリカラ。	[オ]ドリカラ[モ]。
港	1A [ミ]ナト。	[ミ]ナト[ガ]。	[ミ]ナトカラ。	[ミ]ナトカラ[モ]。
女	2A [オ]ンナ。	[オ]ンナ[ガ]。	[オ]ンナカラ。	[オ]ンナカラ[モ]。
小豆	2A [ア]ズキ。	[ア]ズキ[ガ]。	[ア]ズキカラ。	[ア]ズキカラ[モ]。
鋏	4A [ハ]サミ。	[ハ]サミ[ガ]。	[ハ]サミカラ。	[ハ]サミカラ[モ]。
鏡	4A [カ]ガミ。	[カ]ガミ[ガ]。	[カ]ガミカラ。	[カ]ガミカラ[モ]。
男	4A [オ]トコ。	[オ]トコ[ガ]。	[オ]トコカラ。	[オ]トコカラ[モ]。
朝日	5B ア[サ]ヒ。	ア[サヒ]ガ。	ア[サヒ]カラ。	ア[サヒ]カラ[モ]。
命	5B イ[ノ]チ。	イ[ノチ]ガ。	イ[ノチ]カラ。	イ[ノチ]カラ[モ]。
心	5B コ[ロ]ロ。	コ[コロ]ガ。	コ[コロ]カラ。	コ[コロ]カラ[モ]。
兎	6C [ウ]サギ。	[ウサギ]ガ。	[ウサギ]カラ!	[ウサギ]カラ[モ]!
狐	6C き[ツ]ネ ² 。	き[ツネ]ガ。	き[ツネ]カラ!	き[ツネ]カラ[モ]!
背中	6A [セ]ナカ。	[セ]ナカ[ガ]。	[セ]ナカカラ!	[セ]ナカカラ[モ]!
兜	7A [カ]ブト。	[カ]ブト[ガ]。	[カ]ブトカラ!	[カ]ブトカラ[モ]!
母	7C [イ]チゴ。	[イチゴ]ガ。	[イチゴ]カラ!	[イチゴ]カラ[モ]!
菓	7C く[ス]リ。	く[スリ]ガ。	く[スリ]カラ!	く[スリ]カラ[モ]!

¹ 女性話者には、「3拍B、C型語+カラモ」において...カ]ラモ。と下降が1拍早まった発音も聴かれた。

² 母音が無声化した語頭拍は聴覚印象上「低」である。き[ツ!ネ、く[ス!リの他、後出のひ[カ!ラ（火から）やつ[カマエ!タも同様。

型	単独形	十二	十マデ	十マデモ
兎	[ウサ!ギ。]	[ウサギ!ニ。]	[ウサギマ!デ。]	[ウサギマデ!モ。]
狐	き[ツ!ネ。]	き[ツネ!ニ。]	き[ツネマ!デ。]	き[ツネマデ!モ。]
莓	[イチ!ゴ。]	[イチゴ!ニ。]	[イチゴマ!デ。]	[イチゴマデ!モ。]
葉	く[ス!リ。]	く[スリ!ニ。]	く[スリマ!デ。]	く[スリマデ!モ。]

(3) 4拍名詞

型	単独形	十ガ	十カラ	十カラモ ³
餅米	[モ]チゴ!メ。	[モ]チゴメ[ガ。]	[モ]チゴメカ[ラ。]	[モ]チゴメカラ[モ。]
友達	[ト]モダ[チ。]	[ト]モダチ[ガ。]	[ト]モダチカ[ラ。]	[ト]モダチカラ[モ。]
懐	ふ[ト]コ!ロ ⁴ 。	ふ[ト]コロ[ガ。]	ふ[ト]コロカ[ラ。]	ふ[ト]コロカラ[モ。]
唇	く[チ]ビ!ル。	く[チ]ビル[ガ。]	く[チ]ビルカ[ラ。]	く[チ]ビルカラ[モ。]
川上	[カ]ワカ[ミ。]	[カ]ワカミ[ガ。]	[カ]ワカミカ[ラ。]	[カ]ワカミカラ[モ。]
色紙	[イ]ロガ[ミ。]	[イ]ロガミ[ガ。]	[イ]ロガミカ[ラ。]	[イ]ロガミカラ[モ。]
雷	[カ]ミナ[リ。]	[カ]ミナリ[ガ。]	[カ]ミナリカ[ラ。]	[カ]ミナリカラ[モ。]
米櫃	[コ]メビ!ツ。	[コ]メビツ[ガ。]	[コ]メビツカ[ラ。]	[コ]メビツカラ[モ。]
簪	[カン]ザ!シ。	[カン]ザシ[ガ。]	[カン]ザシカ[ラ。]	[カン]ザシカラ[モ。]
針金	[ハリ]ガ!ネ。	[ハリ]ガネ[ガ。]	[ハリ]ガネカ[ラ。]	[ハリ]ガネカラ[モ。]
麦藁	[ムギワ!ラ。]	[ムギワラ!ガ。]	[ムギワラカ!ラ。]	[ムギワラカラ!モ。]
味噌汁	[ミ]ソシ!ル。	[ミ]ソシル[ガ。]	[ミ]ソシルカ[ラ。]	[ミ]ソシルカラ[モ。]
雨降り	[ア]メフ!リ。	[ア]メフリ[ガ。]	[ア]メフリカ[ラ。]	[ア]メフリカラ[モ。]
前掛け	[マエカ!ケ。]	[マエカケ!ガ。]	[マエカケカ!ラ。]	[マエカケカラ!モ。]

³ 女性話者には「4拍B,C型語十カラモ」において...カ]ラモ。と下降が1拍早まった発音も聴かれた。

⁴ 1拍目の母音が無声化すると語頭の音が2拍目を実現する。後出のひ[カ]リ(光), き[コ]エ[ル(聞こえる), す[テ]タ(捨てた), ひ[ト]ヅカ[イ(人遣い), ち[カ]ラウド[ン(カうどん)も同様。

鶯	B	ウ[グイス]ス。	ウ[グイス]ガ。	ウ[グイス]カラ。	ウ[グイス]カラ]モ。
撫子	B	ナ[デシ]コ。	ナ[デシ]コ]ガ。	ナ[デシ]コカラ。	ナ[デシ]コカラ]モ。
風呂敷	C	[フロ]し!キ。	[フロ]し!キ]ガ。	[フロ]し!キカラ。	[フロ]し!キカラ]モ。

型	単独形	+ニ	+マデ	+マデ]モ
簪	C	[カンザ]シ。	[カンザ]シ]ニ。	[カンザ]シマデ]モ。
針金	C	[ハリガ]ネ。	[ハリガ]ネ]ニ。	[ハリガ]ネマデ]モ。
麦藁	C	[ムギワ]ラ。	[ムギワ]ラ]ニ。	[ムギワ]ラマデ]モ。
前掛け	C	[マエカ]ケ。	[マエカ]ケ]]ニ ~ [マエカ]ケ]ニ。	[マエカ]ケマデ]モ。
鶯	B	ウ[グイ]ス。	ウ[グイ]スマ]デ。	ウ[グイ]スマ]デ]モ。
撫子	B	ナ[デシ]コ。	ナ[デシ]コ]ニ。	ナ[デシ]コマ]デ]モ。
風呂敷	C	[フロ]し!キ。	[フロ]し!キ]ニ。	[フロ]し!キマ]デ]モ。

類・型	単独形	+ガ	+カラ	+カラ]モ	+マデ]モ
蚊	1B	[カー]。	[カ]カラ。	[カー]カラ]モ。	[カー]マ]デ]モ。
戸	1B	[トー]。	ト[カ]ラ]ガ。	ト[カ]ラ]モ。 ~ [トー]カラ]モ。	ト[マ]デ]モ。
血	1B	[チー]。	[チ]ガ]ガ。	チ[カ]ラ]モ。 ~ [チー]カラ]モ。	チ[マ]デ]モ。
葉	2B	[ハー]。	[ハ]ガ]ガ。	ハ[カ]ラ]モ。 ~ [ハー]カラ]モ。	ハ[マ]デ]モ。
日	2B	[ヒー]。	[ヒ]ガ]ガ。	ひ[カ]ラ]モ。 ~ [ヒー]カラ]モ。	ひ[マ]デ]モ。
手	3C	[テー]。	[テ]ガ]ガ。	テ[カ]ラ]]]モ ~ [テー]カラ]モ。	[テー]マ]デ]モ。
目	3C	[メー]。	[メ]ガ]ガ。	メ[カ]ラ]モ ~ [メー]カラ]モ。	[メー]マ]デ]モ。
火	3C	[ヒー]。	[ヒ]ガ]ガ。	ひ[カ]ラ]モ ~ [ヒー]カラ]モ。	[ヒー]マ]デ]モ。

(4) 1拍名詞

十ノ...	後続語の型・音調	
[カ]ノ[ナ]キゴ[エ]。 ～[カー]ノ[ナ]キゴ(0)エ。	鳴き声 A	[ナ]キゴ[エ]。
[ト]ノ[スベ]リ ～ [ト]ノ[スベ]リ。	滑り C	[スベ]リ。
[チ]ノ[イ]ロ ～ [チ]ノ[イ]ロ。	色 B	[イ]ロ。
[ハ]ノ[イ]ロ。		
[ヒ]ノ[ひ]カ]リ。	光 A	ひ[カ][リ]。
[テ]ノ[ナ]カ ～ [テ]ノ[ナ]カ。	中 C	[ナ]カ。
[メ]ノ[ウ]エ ～ [メ]ノ[ウ]エ。	上 B	[ウ]エ。
ヒ[ノ]タ]マ ⁵ 。	玉 B	[タ]マ。

(5) 複合語 (国語研作成の調査票項目・男性話者調査分)

前部要素	類・型			
春	5C	[ハ]ルヤス[ミ]	[ハ]ルマツ[リ]	[ハ]ルサ!メ (春休み A 春祭り A 春雨 C)
夏	2B	[ナ]ツヤス[ミ]	[ナ]ツマツ[リ]	[ナ]ツク[サ] (夏休み A 夏祭り A 夏草 A)
金	1A	[カ]ネヅカ[イ]	[カ]ネモウ[ケ]	[カ]ネモ[チ] (金遣い A 金儲け A 金持ち A)
川	2B	[カ]ワクダ[リ]	[カ]ワゾ[ユ]	[カ]ワザカ[ナ] (川下り A 川底 A 川魚 A)
塩	3B	[シ]オア[ジ]	[シ]オカゲ[ン]	[シ]オ[ケ] (塩味 A 塩加減 A 塩気 A)
種	4C	[タ]ネマ!キ	[タ]ネツ!ケ	[タ]ネウ!マ (種時き C 種付け C 種馬 C)
雨	5C	[ア]メフ[リ]	[ア]メアガ!リ	ア[マモ]リ (雨降り A 雨上がり C 雨漏り B)

⁵ 「ヒノタマ」全体で1語化(B型)。

(6) 2拍名詞 (非文末環境)

類・型	単独形	＋ガ／オ／カラ (非文末形)	後続語の型
箱 1A	[ハ]コ。	[ハ]コ[[ガ]ア]ル ～ [ハ]コガ[ア]ル。 [ハ]コ[オ]ツ[ク]ツ[タ] ～ [ハ]コオつ[ク]ツ[タ]。 [ハ]コカ[ラ]ダし[タ]。	[ア]コ[[ル]C (在る) つ[ク]ツ[タ]B (作った) [ダ]し[タ]C (出した)
柿 1A	[カ]キ。	[カ]キ[[ガ]ア]ル ～ [カ]キ[ガ]ア]ル ～ [カ]キガ[ア]ル。 [カ]キ[オ]タ[ベ]タ ～ [カ]キオ[タ]ベ[タ]。 [カ]キカ[ラ]タ[ベ]タ ～ [カ]キカ[ラ]タ[ベ]タ。	[タ]ベ[タ]A (食べた)
音 2B	[オ]ト。	オ[ト]ガきコ[エ]([D])ル ～ オ[トガ]きコ[エ]ル。 オ[ト]オ[タ]テ[タ]。 オ[ト]カ[ラ]オ[ボ]エ[ル]。 カ[ミ]ガナ[イ]。 カ[ミ]オヤ[ブ]ツ[タ]。 カ[ミ]カ[ラ]サ[テ]タ。	き[コ]エ[ル]A (聞こえる) タ[テ]!タC (立てた) [オ]ボエ[ル]A (覚える) [ナ]!イC (無い) ヤ[ブ]ツ[タ]B (破った) サ[テ]!![タ]A (捨てた)
紙 2B	[カ]ミ。	カ[ミ]ガア]ル。 イ[モ]オつ[ク]ツ[タ]。 イ[モ]カ[ラ]タ[ベ]([D])ル。 ア[シ]ガイ([D])イ。 ア[シ]オモ]ンダ。 ア[シ]カ[ラ]モ]ンダ。 [カ]サ]ガア]ル ～ [カ]サ]ガ[ア]!![ル]。 [カ]サ]オカ[ブ]ツ[タ]。 カ[サ]カ]ラつクツ[タ] ～ カ[サ]カ]ラつ[ク]ツ[タ]。 [ウ]ミ]ガミ[エ]ル ～ [ウ]ミ]ガミエ[ル]。	[タ]ベ[ル]A (食べる) イ[タ]イB (痛い) モ[ン]ダB (揉んだ) カ[ブ]ツ[タ]B (被った) ミ[エ]ルB (見える)
芋 3B	[イ]モ。 ～[イ]モ]]。		
足 3B	[ア]シ。		
筵 4C	[カ]!サ。		
海 4C	[ウ]!ミ。		

		[ウミ]オミ[タ] ~ [ウミ]オ[ミ]!タ。	[ミ]!タ C (見た)
		[ウミ]カ[ラ]フアイテ[ク]ル。	[フ]イテク!ル C (吹いて来る)
雨	5C	[ア]メ]ガフ[ル] ~ [ア]メ!ガフ[ル] ~ [ア]メ]ガ[フ]!!ル。	[フ]!!ル C (降る)
		[ア]メ]オ[フ]ラセ[ル]。	[フ]ラセ[ル] A (降らせる)
		[ア]メ]カ[ラ] [マ]モ[ル]。	[マ]モ[ル] A (守る)
蛇	5A	[へ]ビ]ガオ[ル] ~ [へ]ビ]ガオ!![ル] ~ [へ]ビ]ガ[オ]ル。	[オ]!![ル] (居る)
		[へ]ビ]オ]つ[カ]マエ!タ ~ [へ]ビ]オ]つ[カ]マエ!タ。	つ[カ]マエ!タ (捕まえた)
		[へ]ビ]カ[ラ]ニ[ゲ]ル。	ニ[ゲ]ル B (逃げる)

(追加調査分)

類・型	単独形	+ガ/カラ (非文末形)	後続語の型
柿	1A	[カ]キ]キ。	[タ]べ[ル] A (食べる)
芋	3B	[イ]モ。	
麦	4C	[ム]ギ]。	
孫	3B	[マ]ゴ。	

(7) 3拍名詞（非文末環境）

	類・型	+ガ（非文末形）	後続語の型
煙	1A	ケ[ムリ]ガデ]タ。	[デ][タ C（出た）
女	2A	[オ]ンナ[ガオ][ル ～ [オ]ンナガ[オ][ル。	[オ][ル A（居る）
男	4A	[オ]トコ[ガオ][ル ～ [オ]トコガ[オ][ル。	
心	5B	コ[コロ]ガヤ]サシイ。	[ヤ]サシ[イ A（優しい）
兎	6C	[ウサギ]ガオ[ル ～ ウ[サギ]ガオ[ル。	
兜	7A	[カ]ブト[ガア]ル。	[ア][ル C（在る）

（追加調査分）

	類・型	+ガ/オ（非文末形）	後続語の型
女	2A	[オ]ンナオ[ミ]ル。 [オ]ンナガ[ナイ]タ ～ [オ]ンナ[ガナ]イタ。 [オ]ンナガ[ナ][ク。	ナ[イ]タ B（泣いた） [ナ][ク A（泣く）
従兄弟	5B	イ[トコ]ガオ[ル ～ イ[トコ]ガオ[ル。 イ[トコ]オミ]ル。 イ[トコ]ガナ]イタ。 イ[トコ]ガナ]ク。	
兎	6C	ウ[サギ]オミ]ル。 ウ[サギ]ガナイ]タ ～ ウ[サギ]ガナ[イ]タ。 ウ[サギ]ガナ]ク ～ ウ[サギ]ガ[ナ][ク。 [ウサギ]ガ[デ]!タ。	[デ][タ C（出た）

(8) 1拍名詞（非文末環境）

（調査担当者による追加項目・女性話者調査分）

	類・型	+ガ（非文末形）	後続語の型
血	1B	[チ]ガア]ル。 [チ]ガデ]ル。	[ア][ル C（在る）
葉	2B	[ハ]ガア]ル。	
日	2B	[ヒ]ガデ]ル。	
手	3C	[テ]ガア]ル。 [テ]オつけ]ル。	っ[ケ]ル B（付ける）
気	-B	[キ]オつけ]ル。	

(9) 複合語 (調査担当者により追加された調査項目・女性話者調査分)

	型	単独形	助詞添加形, 非文末形	前部の型	後部の型
首飾り	A	[ク]ビカザ[リ]		A	A
髪飾り	A	[カ]ミカザ[リ]		B	A
松飾り	A	[マ]ツカザ[リ]		C	A
	C	~[マツカザ!リ]			
金遣い	A	[カ]ネヅカ[イ]		A	A
人遣い	A	ひ[ト]ヅカ[イ]		B	A
息遣い	A	[イ]キヅカ[イ]		C	A
庭仕事	A	[ニ]ワシゴ[ト]		A	A
山仕事	A	[ヤ]マシゴ[ト]		B	A
針仕事	A	[ハ]リシゴ[ト]		C	A
夏祭り	A	[ナ]ツマツ[リ]		B	A
秋祭り	A	[ア]キマツ[リ]		C	A
桜祭り	A	[サ]クラマツ[リ]		A	A
紅葉祭り	B	モ[ミジマツ]リ		B	A
椿祭り	B	ツ[バキマツ]リ		B	A
裸祭り	C	[ハダカマツ!リ]		C	A
菖蒲祭り	C	[アヤメマツ!リ]		C	A
笹団子	A	[サ]サダン[ゴ]		A	C
肉団子	A	[ニ]クダン[ゴ]		B	C
黍団子	A	[キ]ビダン[ゴ]		C	C
夏休み	A	[ナ]ツヤス[ミ]		B	A
冬休み	A	[フ]ユヤス[ミ]		B	A
春休み	A	[ハ]ルヤス[ミ]		C	A
国作り	A	[ク]ニヅク[リ]		A	A
米作り	A	[コ]メヅク[リ]		B	A
味噌作り	C	ミ[ソヅク!リ]		C	A
水色	C	[ミズイ!ロ]		A	B

小豆色	A	[ア]ズキイ[ロ	A	B
虹色	B	ニ[ジイ]ロ	B	B
紅葉色	B	モ[ミジイ]ロ	B	B
鼠色	A	[ネ]ズミイ[ロ	C	B
竹林	A	[タ]ケバヤ[シ	A	A
栗林	A	[ク]リバヤ[シ	B	A
松林	A	[マ]ツバヤ[シ	C	A
風邪薬	A	[カ]ゼグス[リ	A	C
水薬	A	[ミ]ズグス[リ	A	C
粉薬	C	[コナグス!リ	C	C
筆箱	A	[フ]デバ[コ	A	A
硯箱	A	[ス]ズリバ[コ	A	A
紙箱	A	[カ]ミバ[コ	B	A
薬箱	C	ク[スリバ!コ	C	A
下駄箱	C	[ゲタバ!コ	C	A
蜜柑箱	C	ミ[カンバ!コ	C	A
風車	A	[カ]ザグル[マ	A	A
水車	A	[ミ]ズグル[マ	A	A
糸車	C	[イトグル!マ	C	A
水虫	A	[ミ]ズム[シ	A	A
芋虫	B	イ[モム]シ	B	A
松虫	C	[マツム!シ	C	A
布袋	A	[ヌ]ノブク[ロ	A	A
紙袋	A	[カ]ミブク[ロ	B	A
箸袋	C	[ハシブク!ロ	C	A
あられ袋	A	[ア]ラレブク[ロ	A	A
草履袋	B	[ゾーリブク]ロ	B	A
匂い袋	A	[ニ]オイブク[ロ	A	A
桃畑	A	[モ]モバタ[ケ	A	C

花畑	B	ハ[ナバタ]ケ	ハ[ナバタケ]ガ。 ハ[ナバタケ]ガアル。	B	C
麦畑	C	[ムギバタ]ケ ～ム[ギバタ]ケ	ム[ギバタケ]ガ。 ム[ギバタケ]ガアル。	C	C
小麦畑	A	[コムギバタ]ケ	[コムギバタケガ][アル]。	A	C
山葵畑	B	ワ[サビバタ]ケ ～ワ[サビバ]タケ	ワ[サビバタケ]ガアル。	B	C
トマト畑 ⁶	C?	ト[マトバタ]ケ ～ト[マトバ]タケ	ト[マトバタケ]ガアル。	B	C
西瓜畑	C	[スイカバ]タケ	[スイカバタケ]ガアル。	C	C
苺畑	C	イ[チゴバ]タケ	イ[チゴバタケ]ガアル。	C	C
カうどん	A	ち[カ]ラウド[ン]	ち[カ]ラウドンガ[アル]。	A	-
狐うどん	C	き[ツネウ]ドン	き[ツネウドン]ガアル。	C	-
わかめうどん	B	ワ[カメウド]ン	ワ[カメウドン]ガアル。	B	-
狸うどん	C	[タヌキウ]ドン	タ[ヌキウドン]ガアル。	C	-
カレーうどん	C	カ[レーウ]ドン	カ[レーウドン]ガアル。	C	-

～バタケと～ウドンを後部要素に持つ B, C 型複合語には～バ]タケ。～ウ]ドン。と次末拍の前に下降が生じる音調が聴かれた。「4 拍 B, C 型語+カラモ」に聴かれた...カ]ラモ。と同様, 前次末拍の直前に形態素境界・語境界があるときに B, C 型が取りうるバリエーションと考えておく。

⁶ 「トマト」が B 型であることから「トマト畑」も B 型であることが推測されるが、「トマト畑が...」に続く動詞「アル」が...アル。の形を取ったことは「トマト畑」が C 型であることを示唆する。調査時の確認が不十分であったためこの語の所属型には疑問が残る。

4. 2 隠岐の島町都万方言のアクセント資料

(1) 2拍名詞

類・型	単独形	+ガ	+ニ	+カラ	+マデ	+カラモ	+マデモ
風	カ[ゼ]。	[カ]ゼ[ガ]。	[カ]ゼ[ニ]。	[カ]ゼ[カ]ラ。	[カ]ゼ[マ]デ。	[カ]ゼカ[ラ]モ。	[カ]ゼマ[デ]モ。
箱	ハ[コ] ~ ハ[[コ]。	[ハ]コ[ガ]。	[ハ]コ[ニ]。	[ハ]コ[カ]ラ。	[ハ]コ[マ]デ。	[ハ]コカ[ラ]モ。	[ハ]コマ[デ]モ。
音	[オ]ト。	オ[ト]ガ。	オ[ト]ニ。	オ[ト]カラ。	オ[ト]マデ。	オ[ト]カラモ。	オ[ト]マデモ。
胸	[ム]ネ。	ム[ネ]ガ。	ム[ネ]ニ。	ム[ネ]カラ。	ム[ネ]マデ。	ム[ネ]カラモ。	ム[ネ]マデモ。
歌	ウ[タ] ~ ウ[[タ]。	[ウ]タ[ガ]。	[ウ]タ[ニ]。	[ウ]タ[カ]ラ。	[ウ]タ[マ]デ。	[ウ]タカ[ラ]モ。	[ウ]タマ[デ]モ。
芋	[イ]モ。	イ[モ]ガ。	イ[モ]ニ。	イ[モ]カラ。	イ[モ]マデ。	イ[モ]カラモ。	イ[モ]マデモ。
米	[コ]メ。	コ[メ]ガ。	コ[メ]ニ。	コ[メ]カラ。	コ[メ]マデ。	コ[メ]カラモ。	コ[メ]マデモ。
笠	[カ]サ ~ [カ]サ]]。	[カ]サ[ガ]]。	[カ]サ[ニ]]。	[カ]サ[カ]ラ。	[カ]サ[マ]デ。	[カ]サ[カ]ラモ。	[カ]サ[マ]デモ。
舟	[フ]ネ ~ [フ]ネ]]。	[フ]ネ[ガ]]。	[フ]ネ[ニ]]。	ふ[ネ]カラ。	ふ[ネ]マデ。	[フ]ネ[カ]ラモ。	[フ]ネ[マ]デモ。
雨	[ア]メ ~ [ア]メ]]	[ア]メ[ガ]]。	[ア]メ[ニ]]。	[ア]メ[カ]ラ。	[ア]メ[マ]デ。	[ア]メ[カ]ラモ。	[ア]メ[マ]デモ。
井戸	[イ]ド。	イ[ド]ガ。	イ[ド]ニ。	イ[ド]カラ。	イ[ド]マデ。	イ[ド]カラモ。	イ[ド]マデモ。

十ノ... (AMの話者のみ)

- カ[ゼ]ノオ]ト。
ハコ[ノ]ナ[カ]。
オ[ト]ノ[オ]ーキサ。
ウ[タ]ノ[ホ]ン。
カ[サ]ノ[ホ]ネ。
[フ]ネノ[ウ]エ。
ア[メ]ノ[ナ]カ ~ [ア]メノ[ナ]カ。

(2) 3拍名詞

類・型	単独形	+ガ	+カラ	+カラモ ⁷
煙	ケ[ム]リ。	ケ[ムリ]ガ。	ケ[ムリ]カラ。	ケ[ムリ]カラモ。
踊り	[オ]ドリ。	[オ]ドリガ。	[オ]ドリカラ。	[オ]ドリカラモ。
港	[ミ]ナト。	[ミ]ナトガ。	[ミ]ナトカラ。	[ミ]ナトカラモ。
女	[オ]ンナ。	[オン]ナガ。	[オン]ナカラ。	[オン]ナカラモ。
小豆	[ア]ズキ。	[ア]ズキガ。	[ア]ズキカラ。	[ア]ズキカラモ。
鋏	[ハ]サミ。	[ハ]サミガ。	[ハ]サミカラ。	[ハ]サミカラモ。
鏡	[カ]ガミ。	[カ]ガミガ。	[カ]ガミカラ。	[カ]ガミカラモ。
男	[オ]トコ。	[オ]トコガ。	[オ]トコカラ。	[オ]トコカラモ。
朝日	ア[サ]ヒ。	ア[サヒ]ガ。	ア[サヒ]カラ。	ア[サヒ]カラモ。
命	イ[ノ]チ。	イ[ノチ]ガ。	イ[ノチ]カラ。	イ[ノチ]カラモ。
心	コ[ロ]ロ。	コ[コロ]ガ。	コ[コロ]カラ。	コ[コロ]カラモ。
兎	[ウ]サギ ~ ウ]サ[ギ]]。	[ウ]サギガ。	ウ[サギ]カラ。	ウ[サギ]カラモ。
狐	[キ]ツネ ⁸ ~ キ]ツ[ネ]]。	き[ツネ]ガ。	き[ツネ]カラ。	き[ツネ]カラモ。
背中	[セ]ナカ。	[セ]ナカガ。	[セ]ナカカラ。	[セ]ナカカラモ。
兜	[カ]ブト。	[カ]ブトガ。	[カ]ブトカラ。	[カ]ブトカラモ。
苺	[イ]チゴ ~ イ]チ[ゴ]]。	[イ]チゴガ。	イ[チゴ]カラ。	イ[チゴ]カラモ。
菓	[ク]スリ ²⁰ ~ ク]ス[リ]]。	く[スリ]ガ。	く[スリ]カラ。	く[スリ]カラモ。

⁷ AM 話者では、「3拍B型+カラモ」において...カラモ。と下降が1拍早まって発音される。

⁸ 1拍目が無声化し、き[ツ]ネ、く[ス]リのように高を1拍後ろにずらす場合がある。

型	単独形	十二	十マデ	十マデモ
煙	ケ[ム]リ。	ケ[ムリ]ニ。	ケ[ムリマ]デ。	ケ[ムリマデ]モ。
踊り	[オ]ドリ。	[オ]ドリニ。	[オ]ドリマ[デ]。	[オ]ドリマ[デ]モ。
港	[ミ]ナト。	[ミ]ナトニ。	[ミ]ナトマ[デ]。	[ミ]ナトマ[デ]モ。
女	[オ]ンナ。	[オ]ンナニ。	[オ]ンナマ[デ]。	[オ]ンナマ[デ]モ。
小豆	[ア]ズキ。	[ア]ズキニ。	[ア]ズキマ[デ]。	[ア]ズキマ[デ]モ。
鋏	[ハ]サミ。	[ハ]サミニ。	[ハ]サミマ[デ]。	[ハ]サミマ[デ]モ。
鏡	[カ]ガミ。	[カ]ガミニ。	[カ]ガミマ[デ]。	[カ]ガミマ[デ]モ。
男	[オ]トコ。	[オ]トコニ。	[オ]トコマ[デ]。	[オ]トコマ[デ]モ。
朝日	ア[サ]ヒ。	ア[サヒ]ニ。	ア[サヒマ]デ。	ア[サヒマデ]モ。
命	イ[ノ]チ。	イ[ノチ]ニ。	イ[ノチマ]デ。	イ[ノチマデ]モ。
心	コ[コ]ロ。	コ[コロ]ニ。	コ[コロマ]デ。	コ[コロマデ]モ。
兎	[ウ]サギ ~ ウ]サ[ギ]]。	[ウ]サギニ。	ウ]サ[ギ]マデ。	ウ]サ[ギ]マデモ。
狐	[キ]ツネ ~ キ]ツ[ネ]]。	き]ツ[ネ]ニ。	き]ツ[ネ]マデ。	き]ツ[ネ]マデモ。
背中	[セ]ナカ。	[セ]ナ[カ]ニ。	[セ]ナカマ[デ]。	[セ]ナカマデ]モ。
兜	[カ]ブト。	[カ]ブトニ。	[カ]ブトマ[デ]。	[カ]ブトマデ]モ。
母	[イ]チゴ ~ イ]チ[ゴ]]。	[イ]チゴニ。	イ]チ[ゴ]マデ。	イ]チ[ゴ]マデモ。
菓	[ク]スリ ~ ク]ス[リ]]。	く]ス[リ]ニ。	く]ス[リ]マデ。	く]ス[リ]マデモ。

(3) 4拍名詞

型	単独形	+ガ	+カラ	+カラモ
餅米 C	[モチ]ゴメ。	モ[チ]ゴメガ。	モ[チ]ゴメ[カ]ラ。	モ[チ]ゴメカ[ラ]モ。
友達 A	[ト]モ[ダ]チ。	[ト]モダ[チ]ガ。	[ト]モダチ[カ]ラ。	[ト]モダチカ[ラ]モ。
懐 A	[フ]ト[コ]ロ。	[フ]トコ[ロ]ガ。	[フ]トコロ[カ]ラ。	[フ]トコロカ[ラ]モ。
唇 A	[ク]チ[ビ]ル。	[ク]チビ[ル]ガ。	[ク]チビル[カ]ラ。	[ク]チビルカ[ラ]モ。
川上 A	[カ]ワ[カ]ミ。	[カ]ワカ[ミ]ガ。	[カ]ワカミ[カ]ラ。	[カ]ワカミカ[ラ]モ。
色紙 A	[イ]ロ[ガ]ミ。	[イ]ロガ[ミ]ガ。	[イ]ロガミ[カ]ラ。	[イ]ロガミカ[ラ]モ。
雷 A	[カ]ミ[ナ]リ。	[カ]ミナ[リ]ガ。	[カ]ミナリ[カ]ラ。	[カ]ミナリカ[ラ]モ。
米櫃 A	[コ]メ[ビ]ツ。	[コ]メビ[ツ]ガ。	[コ]メビツ[カ]ラ。	[コ]メビツカ[ラ]モ。
簪 C	[カ]ン[ザ]シ。	[カ]ンザ[シ]ガ。	[カ]ンザシカラ。	[カ]ンザシカラモ。
針金 C	[ハ]リ[ガ]ネ。	[ハ]リガ[ネ]ガ。	[ハ]リガネカラ。	[ハ]リガネカラモ。
麦藁 C	[ム]ギ[ワ]ラ。	[ム]ギワ[ラ]ガ。	[ム]ギワラカラ。	[ム]ギワラカラモ。
味噌汁 A	[ミ]ソ[シ]ル。	[ミ]ソシ[ル]ガ。	[ミ]ソシル[カ]ラ。	[ミ]ソシルカ[ラ]モ。
雨降り A	[ア]メ[フ]リ。	[ア]メフ[リ]ガ。	[ア]メフリ[カ]ラ。	[ア]メフリカ[ラ]モ。
前掛け C	[マ]エ[カ]ケ。	[マ]エカ[ケ]ガ。	[マ]エカケカラ。	[マ]エカケカラモ。
鶯 B	ウ[グ]イ[ス]。	ウ[グ]イス[ガ]ガ。	ウ[グ]イスカラ。	ウ[グ]イスカラモ。
撫子 B	ナ[デ]シ[コ]。	ナ[デ]シコ[ガ]ガ。	ナ[デ]シコカラ。	ナ[デ]シコカラモ。
風呂敷 C	ふ[ロ]シ[キ]。	ふ[ロ]シキ[ガ]ガ。	ふ[ロ]シキカラ。	ふ[ロ]シキカラモ。

型	十二	十マデ	十マデモ
餅米	モ[チ]ゴメニ。	モ[チ]ゴメ[マ]デ。	モ[チ]ゴメマ[デ]モ。
友達	[ト]モダ[チ]ニ。	[ト]モダチ[マ]デ。	[ト]モダチマ[デ]モ。
懐	[フ]トコロニ。	[フ]トコロ[マ]デ。	[フ]トコロマ[デ]モ。
唇	[ク]チビ[ル]ニ。	[ク]チビル[マ]デ。	[ク]チビルマ[デ]モ。
川上	[カ]ワカ[ミ]ニ。	[カ]ワカミ[マ]デ。	[カ]ワカミマ[デ]モ。
色紙	[イ]ロガ[ミ]ニ。	[イ]ロガミ[マ]デ。	[イ]ロガミマ[デ]モ。
雷	[カ]ミナ[リ]ニ。	[カ]ミナリ[マ]デ。	[カ]ミナリマ[デ]モ。
米櫃	[コ]メビ[ツ]ニ。	[コ]メビツ[マ]デ。	[コ]メビツマ[デ]モ。
簪	[カン]ザシニ。	[カン]ザシマデ。	[カン]ザシマデモ。
針金	[ハリ]ガネニ。	[ハリ]ガネマデ。	[ハリ]ガネマデモ。
麦藁	[ムギ]ワラニ。	[ムギ]ワラマデ。	[ムギ]ワラマデモ。
味噌汁	[ミ]ソシ[ル]ニ。	[ミ]ソシル[マ]デ。	[ミ]ソシルマ[デ]モ。
雨降り	[ア]メフ[リ]ニ。	[ア]メフリ[マ]デ。	[ア]メフリマ[デ]モ。
前掛け	[マエ]カケニ。	[マエ]カケマデ。	[マエ]カケマデモ。
鶯	ウ[グイ]スニ。	ウ[グイ]スマデ。	ウ[グイ]スマデモ。
撫子	ナ[デシ]コニ。	ナ[デシ]コマデ。	ナ[デシ]コマデモ。
風呂敷	ふ[ロシ]キニ。	ふ[ロシ]キマデ。	ふ[ロシ]キマデモ。

(4) 1 拍名詞

類・型	単独形	+ガ	+ニ	+カラ	+カラモ	+マデモ
蚊	[カー]]。	[カ]ガ	[カ]ニ。	[カ]カラ。	カ[カラ]モ。	カ[マデ]モ。
戸	[トー]]。	[ト]ガ。	[ト]ニ。	ト[カ]ラ。	ト[カラ]モ。	ト[マデ]モ。
血	[チー]]。	[チ]ガ。	[チ]ニ。	チ[カ]ラ。	チ[カラ]モ。	チ[マデ]モ。
葉	[ハー]]。	[ハ]ガ。	[ハ]ニ。	ハ[カ]ラ。	ハ[カラ]モ。	ハ[マデ]モ。
日	[ヒー]]。	[ヒ]ガ。	[ヒ]ニ。	[ヒ]カラ。	ヒ[カラ]モ。	ヒ[マデ]モ。
手	[テー]]。	[テガ]]。	[テニ]]。	[テ]カラ。	[テカ]ラモ。	[テマ]デモ。
目	[メー]]。	[メガ]]。	[メニ]]。	[メ]カラ。	[メカ]ラモ。	[メ]マデモ。
火	[ヒー]]。	[ヒガ]]。	[ヒニ]]。	[ヒ]カラ。	[ヒカ]ラモ。	[ヒマ]デモ。

(5) 2 拍名詞最小対

類・型	単独形	+ガ	+ニ	+カラ	+マデ
飴	ア[メ]。	[ア]メ[ガ]	[ア]メ[ニ]。	[ア]メ[カ]ラ。	[ア]メ[マ]デ。
雨	[アメ]]。	[ア]メガ。	[ア]メニ。	[ア]メカラ。	[ア]メマデ。
釜	カ[マ]。	[カ]マ[ガ]。	[カ]マ[ニ]。	[カ]マ[カ]ラ。	[カ]マ[マ]デ。
鎌	[カマ]]。	[カ]マガ。	[カ]マニ。	[カ]マカラ。	[カ]ママデ。
端	ハ[シ]。	[ハ]し[ガ]。	[ハ]し[ニ]。	[ハ]し[カ]ラ。	[ハ]し[マ]デ。
橋	[ハシ]。	ハ[シ]ガ。	ハ[シ]ニ。	ハ[シ]カラ。	ハ[シ]マデ。
箸	[ハシ]]。	[ハ]しガ。	[ハ]しニ。	[ハ]しカラ。	[ハ]しマデ。
紙	[カ]ミ。	カ[ミ]ガ。	カ[ミ]ニ。	カ[ミ]カラ。	カ[ミ]マデ。
髪	[カ]ミ。	カ[ミ]ガ	カ[ミ]ニ。	カ[ミ]カラ。	カ[ミ]マデ。
霧	キ[リ]。	[キ]リ[ガ]。	[キ]リ[ニ]。	[キ]リ[カ]ラ。	[キ]リ[マ]デ。
錐	[キリ]]。	[キ]リガ。	[キ]リニ。	き[リ]カラ。	[キ]リマデ。